

防空壕きくらげを食べて食卓で戦争と平和について考えよう**活動の経緯**

川崎麻生区の山林を購入したら、そこに防空壕がありました。近所のお年寄りのお話を聞くと近所の常念寺に学童疎開に来ていた子供たちの避難用に日本軍が掘ったとのこと。埋め戻すか、保存するか悩みましたが、壕内の堀跡などを触ると、当時子供たちを守るために一生懸命に掘ったんだということが伝わってきて鳥肌がたちました。これは残しておかなければいけないものだと思います、保全改修し、さらに有効活用の為きくらげを生産することになりました。

活動の概要

きくらげを生産し、特殊な施設で栽培されていることがわかるよう「防空壕きくらげ」と名付けて販売しています。ご家庭の食卓で、戦争と平和について考えるきっかけになるようアピールしています。



防空壕きくらげ栽培施設と内部



ボックスカルバート施設と内部

活動の成果、主な実績等

農業未経験だが、防空壕でキクラゲの栽培を一から勉強し、特殊な環境での栽培に成功。きくらげの販売で地域の人にも存在がわかるように取り組み、一般の方や小学生などの見学などの申し込みがあり随時受け入れている。テレビ新聞等、多数紹介されたことで川崎市での戦争の記憶として学童疎開という事実を広く公開。

さらに栽培について、防空壕での栽培経験から、同環境を再現しキクラゲ栽培の増産を可能にするシステムの開発に携わりボックスカルバートコンクリートでの栽培にも成功した。その体験から、キクラゲ栽培は、設備と環境を整えれば、農業経験のない女性でも高齢者の方でも参入可能。その食感や栄養素も高いことから、人気が高く、国内生産量を増やすため、今後広くこのシステムを広めて各地で生のキクラゲが食べられるように取り組んでいる。